



2025 年 11 月 27 日
株式会社野村総合研究所

野村総合研究所、日本の大手自動車部品サプライヤーの Catena-X 対応支援を開始

～Catena-X 準拠コネクタを国内企業として初導入～

株式会社野村総合研究所（以下「NRI」）は、日本の大手自動車部品サプライヤーに対し、欧州の自動車部品取引に必須となるデータ連携要件に準拠するための Catena-X¹（欧州自動車産業のデータスペース²）本番ネットワーク接続支援を 2025 年 10 月より開始しました。本支援では、NRI が独自に開発し、Catena-X の認定を受けた NRI 製 EDC コネクタ³（以下「EDC コネクタ」）を活用しています。日本の IT 企業による、日本企業への Catena-X 本番ネットワーク接続支援の成功事例は NRI が初めてとなります。本取り組みは、欧州自動車業界で求められるトレーサビリティ管理⁴に対し、日本の自動車部品サプライヤーが Catena-X へ速やかに対応できるよう支援するものです。

■ Catena-X の重要性

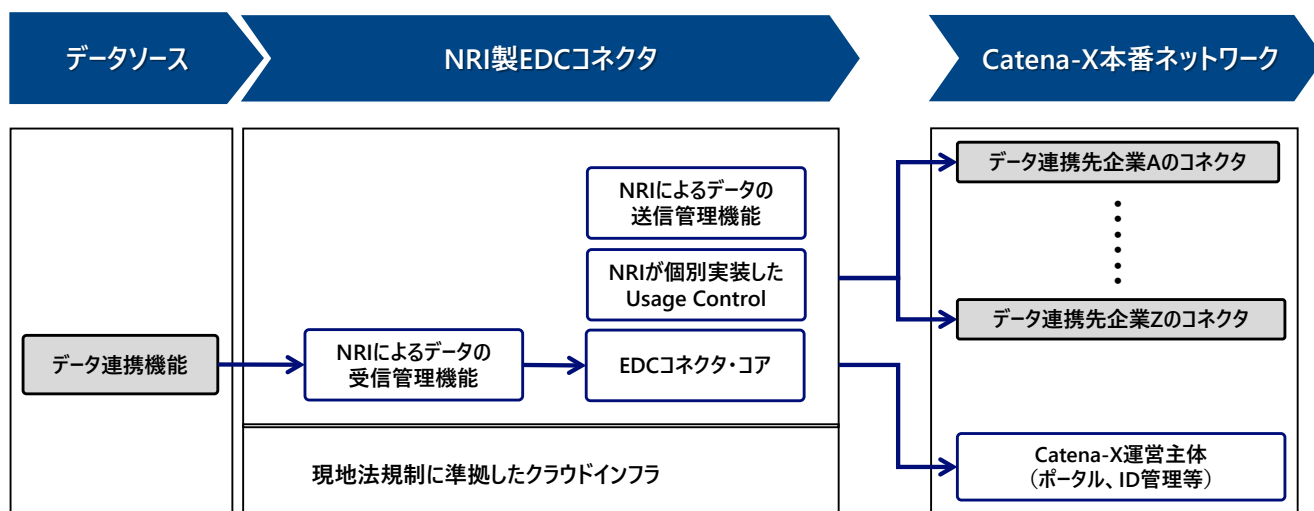
Catena-X は、欧州の脱炭素・資源循環をはじめとする社会課題への解決に向けて不可欠な社会インフラとして位置付けられています。リコール対応時に影響を最小限に抑制するための緻密なトレーサビリティ管理業務を皮切りに、Catena-X のさらなる活用が今後本格化していく見込みです。

■ 日本の大手自動車部品サプライヤーとの取り組みについて

NRI は、独自に開発し Catena-X の認定を受けた EDC コネクタを活用して、グローバルに展開する日本の大手自動車部品サプライヤーの各国拠点と欧州自動車 OEM 各社間のデータ連携を支援します。このデータ連携は、Catena-X の仕様に沿ったデータ主権⁵に基づいて行われます。これに伴い、NRI は Catena-X で認証可能な EDC コネクタの海外拠点を開設しました。海外に拠点を設立する際には、現地法規制への対応が重要になります。例えば、欧州の厳しいデータ利用規制をクリアするために NRI はオラクル・コーポレーションと協力し、ソブリンリージョン⁶の提供と環境・運用支援体制を実現しています。

支援の核となる EDC コネクタは、欧州のデータ主権を実現する Catena-X の仕様に準拠しており、今後も Catena-X の国際標準化仕様に沿った機能強化やサポートを継続して提供する予定です。

図：NRI 製 EDC コネクタの特徴



※データ送信の方向のみを図示しておりますが、その逆も可能です

■ Hanno Focken, Managing Director, Catena-X Automotive Network e.V. 氏からのコメント

Catena-X は、各国リージョンのプロバイダーがその国の企業にソリューションを提供できるグローバルなデータエコシステムです。NRI が日本における先駆者としてこのようなシステム開発を実施し、地域企業をネットワークに繋げてくださることを大変嬉しく思います。

NRI は今後も、EDC コネクタに実装された Usage Control⁷やデータ管理機能を駆使し、今後も研究開発の成果を活かし、Catena-X を活用した日本の自動車業界のデータ連携や業務高度化を支援していきます。

¹ Catena-X：詳しくは次の URL をご覧ください。

コラム 2022 年 7 月 GAIA-X（ガイア-エックス）とカテナ-X の衝撃 データ連携による巨大なエコシステムの台頭 藤野 直明

https://www.nri.com/jp/knowledge/blog/1st/2022/iis/fujino/0727_1

² データスペース：企業や組織間でデータを連携、共有するためのコンピュータやネットワーク上の空間。

詳しくは次の URL をご覧ください。

コラム 2024 年 3 月：欧州のデータスペースにおけるデータ主権の在り方 大塚 紳一郎

https://www.nri.com/jp/knowledge/blog/1st/2024/ips/technical_engineer/0329_1

³ 野村総合研究所、欧州の自動車分野におけるデータ連携基盤 Catena-X の認定を日本で初めて取得

https://www.nri.com/jp/news/info/20241016_1.html

⁴トレーサビリティ：製品がどこから来てどこへ行ったのかを追跡する仕組みであり、リコール発生時における対象製品の迅速な特定・回収、影響範囲の最小化の為に不可欠となっております。

⁵ データ主権：詳しくは次の URL をご覧ください。

知的資産創造 2023 年 5 月号：デジタルな社会課題解決に資する「データ主権」小田島 潤

<https://www.nri.com/jp/knowledge/publication/cc/chitekishisan/lst/2023/05/01>

⁶ 欧州連合用の Oracle のソブリン・クラウド・リージョン紹介

<https://blogs.oracle.com/oracle4engineer/post/ja-intro-sovereign-cloud-regions-for-eu>

⁷ Usage Control：データ主権を担保するための重要な機能であり、データの整合性や生存期間などのデータの利用制御を実現します。Usage Control の実装は EDC コネクタを利用する開発者に実装が委ねられています。

【お知らせに関するお問い合わせ】

株式会社野村総合研究所 コーポレートコミュニケーション部 六反、竹尾

TEL：03-5877-7100 E-mail：kouhou@nri.co.jp

【本件に関するお問い合わせ】

株式会社野村総合研究所 中部支社 関西・中部ビジネスディベロップメント室 室長 林

株式会社野村総合研究所 マルチクラウドインテグレーション事業本部 デジタルインテグレーション推進部 大塚（Shinichiro Otsuka, NRI Certified IT Architect & Oracle ACE Director）

E-mail：nri-caas@nri.co.jp